



▲高原さんのお母さんの持ち物。  
手話を始めたきっかけの1つ。

### 手話との出会い

学生の頃から、市民手話講習会や手話サークルに参加し、聴覚障害者の方と触れ合う機会がありました。手話を使う方は、外見からは分かりませんが、身近にたくさんいることを知って驚きました。

### 仕事で大事なこと

相手の考えや想いを、正しくつかむことが大事です。話し方には個性があり、語彙力も人それぞれ。また、コミュニケーションはいつも順序立てて説明することばかりではありません。日本語も手話も同じだと思います。

### 仕事のやりがい

聴覚障害者の方から、お困り事の相談を受けることがあります。解決に向けて、その方が「次の行動」ができるように専門機関へ橋渡しをします。私一人の力ではないですが、聴覚障害者の生活の質を上げる支援ができたとき、やりがいを感じます。



しゅわ つうやくし  
**手話通訳士**

たかはら かずみ  
**高原 和美さん**  
しものせき しゅつしん  
下関市出身

# 仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

### 下関で広がる理解

医療や福祉の通訳現場では、聴覚障害者のために医師が大きく口を動かし、図や模型を使い病状等を伝える姿や、スタッフの手話を覚え、会話を楽しむ姿を見る機会が増えました。その光景を見ると、とてもうれしくなります。聴覚障害者と多くの時間を過ごしているのは、こうした周囲や日常生活で出会う人。手話通訳士が接するのは生活のほんの一部分ですが、手話でお手伝いをする事で「両者をつなぐ」という大切な役割をこれからも果たしたいです。**生きた手話を学んでほしい！**手話通訳士がいなければコミュニケーションができないわけではありません。今は手話の動画や本がたくさんありますが、ぜひ下関の聴覚障害者と出会っていただけると嬉しいです！聴覚障害者の方は、過去の出来事や自身の感情を表情豊かに伝えてくれます。その素晴らしい手話表現は、まるでその場にいるかのような感覚になります。手話での会話は楽しいですよ。

1つでもいいです。  
皆さんも手話を覚え  
てみませんか？



「ありがとう」を手話で表現



定例記者会見での手話通訳



訪問看護利用者の手話を読み取り、  
健康状態を看護師に伝えます。